



©Yuki Asada

山岳民族の技に新たな息吹を

ある夏の昼下がり。長崎市内の一角、かつて日本唯一の玄関口だった出島町の通りに、小さな雑貨店を見つけた。表の扉を抜けると、どこかエスニックな香りのするプレスレットやピアス、携帯ストラップなどが並べられている。店名は「prawmai」^{プラウマイ}。タイ語で「キラキラしたシルク」という意味だという。

「タイの山岳民族の手工芸品を販売しているんですよ」。オーナーの高野繭子さんは青年海外協力隊OG。2004～06年、手工芸隊員としてタイ北西部・スコタイ県に派遣。村の人々が継承してきた織物や刺しゅうなどの“ものづくり技術”を生かし、貧困削減のための自立支援に取り組んだ。

彼らのきめ細やかな技に魅せられた高野さんは、その魅力をより多くの人に伝えたいと、帰国後に地元長崎に店をオープン。現地から調達したフェアトレード商品を取り扱っている。

「彼らの伝統技術の良さを引き出すためにはデザイン力も必要でした」と高野さん。昨年からは地元のアーティストとコラボレーションし、モン族の刺しゅうを取り入れた陶器、ヤオ族の布を使った着物の帯など、数々の素晴らしい作品を生み出している。

山岳民族との出会いから7年。高野さんら長崎人の手により新たな息吹を吹き込まれた雑貨は、日本とタイの友好の証しにもなっている。



高野さん(右)は現地の人と話し合いを重ね、伝統を生かしたデザインを考案している

★ゾウのキーホルダーを2人、ボンボン付きキーホルダー、ランチョンマットを各1人にプレゼント!
→詳細は38ページへ

<prawmai>
〒850-0862 長崎市出島町10-3-1F
営業時間：11～18時(火曜定休)
HP：prawmai.ocnk.net

